第 11 期千代田区生涯学習推進委員会議　報告書

テーマ：学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり

Ⅰ　はじめに

第 11 期生涯学習推進委員会議は、「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク」をテーマとして約 2 年間の協議を経て、ここに報告書をまとめることができた。

本推進委員会議は、第 10 期の報告書で「(仮称) 生涯学習大学の創設について」を提言したところであるが、これは平成 28 年に「ちよだ生涯学習カレッジ」(以下、「ちよカレ」という)という名称で開校され、1 コース目が運営されるに至った。そこで、今期の第 11 期は、その 2 コース目の学習課題について協議すると共に、「ちよカレ」の卒業生による今後の活動をどう支援できるかを一つの課題として協議することとした。

まず、「ちよカレ」の 2 コース目の学習課題としては、様々な意見も出され、1 コース目とは異なる課題として、千代田区の魅力の発信とアピールを担う「千代田まちマイスター」の養成を取り上げるよう提言することとした。とりわけ、東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れて国内外の観光客に対応するボランティア活動を担う人材(マイスター)の養成が求められるが、これに限らず、千代田区の新たな価値を見出し、創造し、これらを区内外の方々に発信する人材の養成も課題になる。この 2 コース目も、「学び」の縦糸と横糸が織りなすネットワークづくりにつながることを目指している。

つぎに、卒業生の在り方に関しては、「学び」を縦糸、すなわち「ちよカレ」卒業後の学びにどう結びつけ、地域活動等に生かすことができるかという視点と、それを横糸、すなわち区内の多様な学びの場との関連付けを図ることがでるかという視点を、交差させるような仕組み(ネットワーク)づくりに焦点を当てて議論を重ねてきた。このことについては、本報告書の「Ⅲ２．卒業後の展望について」で述べてあるように、「ちよカレサポーターへの登録」「人材バンク登録」「千代田区内でのデビュー」という 3 つの支援策を提言している。

本報告書では、「Ⅱ『ちよだ生涯学習カレッジ』の開校と運営」についても触れ、その実態を記し、続く「Ⅲ『ちよだ生涯学習カレッジ』の課題と検討」の中で前述した 2 コース目の在り方と卒業生の展望」に関する提言をまとめてある。そして、「Ⅳ学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」に関しては千代田区生涯学習連絡会の報告と共に、そのネットワークづくりの視点を提言的に述べている。最後の「Ⅴ今後の課題と展望」では、千代田区における「学び」のネットワークづくりを展望しつつ、これからの課題について言及している。

なお、本報告書作成に至る過程では、計 9 回の会議を開催し、多くの委員から様々な視点による意見が出された。

最後に、本報告書が千代田区における「学び」の振興と施策の充実にいささかでも資することが出来れば、推進委員一同の喜びとなる。

Ⅱ　『ちよだ生涯学習カレッジ』の開校と運営

第 11 期生涯学習推進委員会議では、第 10 期生涯学習推進委員会議にて検討・決定した「ちよだ生涯学習カレッジ」の基本理念・方針を踏まえ、詳細について検討を重ね、下記のとおり決定した。

１．概要

（１）開校

平成 28（2016）年 10 月に開校し、第 1 期を開始した。以後、第 2 期は平成 29（2017）年 10 月、第 3 期は平成 30（2018）年 10 月と毎年 10 月に開始する。

（２）ちよだ生涯学習カレッジ学長

佐藤晴雄 氏（日本大学文理学部教育学科教授）

（３）ちよだ生涯学習カレッジ事務局

千代田区立九段生涯学習館内に置く。

（４）授業回数

36 回（18 回／年）

※回数の中には、入学式、卒業式、オープンカレッジ等の行事は含まない。

（５）卒業要件

下記の２つを満たすことを卒業要件とする。

①各単元の 6 回の授業のうち、4 回以上、および全 36 回のうち 28 回以上の出席。

ただし、30 分以上の遅刻および早退をあわせて計 2 回で、1 回の出席とみなす。

②授業における習熟度が一定の水準に達していると、コース長が認めること。

（６）申込み資格

① 20 歳以上（入学する年の 10 月 1 日現在）

② 千代田区内在住・在勤・在学

③ 2 年間継続して学ぶことができ、学習成果を地域活動やボランティア活動を通して実践する意欲のある方

（７）定員

30 名

（８）授業料

年間１万円（２年間で２万円）

（9）選考方法および入学者の決定

入学願書に必要事項を記入し、作文（課題あり／600～800 字）を添えて、事務局まで郵送、来館、またはホームページより、締切日までに必着にて申し込む。提出した入学願書は返却しない。

（10）学生生活ハンドブック

「ちよだ生涯学習カレッジ」のルール等を記載した『学生生活ハンドブック』を作成し、学生に配布する。毎年見直し、その都度、改訂版を全ての在校生に配布する。平成 28 年 10 月の開校に先立ち、本会議ではハンドブックの内容について、以下のように検討し、反映した。

【学生生活ハンドブックの項目と内容】

① ちよだ生涯学習カレッジについて

- 本カレッジの基本理念及び３つの方針を理解し、自発的に積極的に学ぶこと
- 他の学生の意見や考えを尊重し、価値観を認め肯定的に関わること

②学びと地域のコーディネーター養成コース

- 履修単元及び卒業要件について
- 卒業後について

③授業について

- 教室型の場合は 19 時～21 時に行い、それ以外の場合はその都度知らせること
- 授業には学生証を必ず持参し、受付で提示すること
- 各授業終了後に「学びのフィードバック」を全員が提出し、日直は「授業レポート」を作成し提出すること

④ちよカレルール

- 授業中のマナー（例：飲食禁止）
- 緊急時の対応
- 配布資料等の著作権・帰属先
- 貴重品の自己管理

⑤在学にあたって

- 委員会活動について
- 進級及び退学について

⑥ちよだ生涯学習カレッジ事務局

- 事務局担当者と連絡先について

２．「学びと地域のコーディネーター養成コース」の概要

「学びと地域のコーディネーター養成コース」では「学びと地域のコーディネーター」を養成する。「学びと地域のコーディネーター」とは学びを軸に地域と地域、人と地域、人と人とを繋ぐ役割を担う人である。本コースでは、千代田区内において学びをベースにコミュニティの形成に関わる実践力を身に付けることを目的とする。

（1）コース長

笹井宏益 氏

（就任時は文部科学省国立教育政策研究所総括客員研究員、現在は玉川大学学術研究所教授）

（2）講師（五十音順）

大学講師、千代田区関係者および各専門機関の研究者、各地でさまざまな活動をしている諸団体の代表など、学びと地域に関わる多種多彩な方々にご登壇いただく。

- 猪熊純氏（首都大学東京都市環境学部助教/第 1 期）
- 宇於崎克也氏（日本大学理工学部教授/第 2 期）
- 金城敦彦氏
  （一般社団法人大手町･丸の内･有楽町地区まちづくり協議会事務局長/第１・2 期）
- 笹井宏益氏（玉川大学学術研究所教授/第 1・2 期）
- 佐々木浩一氏（アーツ千代田 3331 アドミニストレーションマネージャー/第 2 期）
- 佐藤一子氏（東京大学名誉教授/第 1・2 期）
- 清水昌代氏（ちよだボランティアセンター長/第 1・2 期）
- 高井正氏（立教大学学校・社会教育講座特任准教授/第 2 期）
- 中村政人氏
  （東京藝術大学美術学部教授/アーツ千代田 3331 統括ディレクター/第 1 期）
- 成瀬友梨氏（東京大学大学院工学系研究科助教第 1 期）
- 平川景子氏（明治大学文学部教授/第 1 期）
- 山西優二氏（早稲田大学文学学術院教授/第 1・2 期）
- 区関係機関・団体職員　他

（3）カリキュラム

6 つの単元（基礎Ⅰ・Ⅱ、専門Ⅰ・Ⅱ、習熟Ⅰ・Ⅱ）の各 6 回の授業で構成される。

	単元	培う力	内　容
1年次	**基礎Ⅰ** 千代田区学・コミュニティ論	キュレーション力	自分＝個人を見つめ直し、千代田区の特色ある街づくりの事例を通して、個人と地域の関わり、コミュニティやコーディネートの在り方を考察する。
	基礎Ⅱ 生涯学習概論	コーディネート力	生涯学習、ボランティア、プロボノ、さらにはコーディネート、ファシリテーション、ワークショップについて学ぶ。
	専門Ⅰ 千代田区の生涯学習	分析力	個々の学びの体験を語ること、聴くこと、ワークショップを通して、話し合いの基本を学ぶ。参考となる他施設も見学し、それらを比較・検討し、発表する。
2年次	**専門Ⅱ** 生涯学習特論	企画力	1 年次での学びをより実践的に深めるため、ゲストを招き、モデル事例を考察する。千代田区における生涯学習を基盤としたコミュニティの捉え方、関わり方を模索する。

	単元	培う力	内　容
2年次	**習熟Ⅰ** 実習	遂行力	オープンカレッジでのイベントを、学生自ら主体的にグループを組み、企画立案から運営までを行い、個ではなくグループでできること、グループで成し遂げる力を養う。
	習熟Ⅱ 演習	発信力	一人ひとりが、自分で探した課題について発表し、質疑に答えるゼミ形式の授業を通じて、学びを深めていく。

３．第１期生について

（１）募集

①募集期間

平成 28 年 7 月 5 日（火）～8 月 19 日（金）

②周知媒体

- ちよだ生涯学習カレッジ入学募集案内
  区施設等に設置
- 広報千代田 7 月 5 日号
- ポスター
  区施設及び区掲示板に掲示
- チラシ
  マンション連絡会を通して 8 月に配布及び区施設等に設置
- 区ホームページ及びＳＮＳ、ちよだ生涯学習カレッジ専用ホームページ
- プレスリリース

③応募状況

応募者数は 35 名、内訳は以下のとおり。

年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
人数	1	5	2	18	8	1	35

区分	在住	在勤	合計
人数	23	12	35

（２）選考・入学

応募者 35 名を審査し、35 名全員の入学を決定した。

（3）授業の日程と内容

原則として水曜日の 19 時～21 時

	日程	テーマ		内容
1	平成 28 年 10 月 5 日（水）	入学式	入学式&オリエンテーション ・入学式 ・オリエンテーション ・プログラム説明、自己紹介	入学生 35 名のうち 33 名が参加した。
2	10 月 19 日（水）	基礎Ⅰ―1	私、私の生き方 ・自分のキャリアを振り返る ・今後、地域社会とどう関わっていくのか ・ライフキャリア	「生涯学習」と「コミュニティ」の定義、役割について基礎的な知識を学習した。
3	11 月 2 日（水）	基礎Ⅰ―2	地域を考える① ・建築・まちづくりの観点からみる ・各地域の取り組み ・地域のコーディネーターにできることとは？	地域活性化において様々なアプローチや活動の事例から、コーディネーターの果たす役割について考えた。
4	11 月 16 日（水）	専門Ⅰ―1	専門Ⅰガイダンス事例研究 ・生涯学習の現場	グループに分かれて自己紹介や生涯学習体験について語り合い、体験施設の候補地についても話し合った。
5	平成 28 年 11 月 17 日（木）～平成 29 年 3 月 22 日（水）の間に受講	専門Ⅰ―2	講座見学＆体験 ・個人、もしくはグループでの見学や体験	千代田区内の施設（日比谷図書文化会館の日比谷カレッジ、社会福祉協議会主催事業など）の見学や講演会に参加した。
6	12 月 7 日（水）	基礎Ⅰ―3	千代田学①事例研究 ・現代アートと地域 ・外神田と神田錦町での取り組みを中心に	アートを通して千代田区内で展開している取り組みと、地域住民を巻き込んだイベントを数多く実施しる取り組みについて学習した。
7	平成 29 年 1 月 11 日（水）	基礎Ⅰ―4	千代田学②事例研究 ・働く人にとってのコミュニティ ・大手町丸の内有楽町エリアでの取り組みを中心に	景観まちづくりや活性化の取り組みについて学習した。
8	1 月 25 日（水）	基礎Ⅱ―1	生涯学習① ・学び、教育とは	「学び」と「教育」の定義について学習した。自分自身のこれまでの学びについて振り返る作業も行った。
9	2 月 8 日（水）	基礎Ⅰ―5	千代田学③ ・千代田区の魅力	区の担当者からオリ・パラにむけた区の取り組みについて学習し、今後どのように関われるか等話し合った。
10	2 月 22 日（水）	基礎Ⅱ―2	生涯学習② ・21 世紀に求められる学びとは	多様な学びに関する世界の動向、日本の動向について学んだ。
11	3 月 8 日（水）	基礎Ⅰ―6	地域を考える② ・千代田区での課題と取り組みの可能性を探る	各自が調べてきた地域の課題をグループ内で発表、共有した。
12	3 月 22 日（水）	専門Ⅰ―3	振り返り＆探求 ・見学や体験の振り返り ・自分たちで見学施設研究	施設見学委員会が選出した 6 施設、講師が推薦した 2 施設について説明し、後日、施設の希望をとった。

	日程	テーマ		内容
13	平成 29 年 4 月～7 月の間に受講	専門Ⅰ―5	施設見学②事例研究 ・グループでの見学	千代田区内外の施設（アーツ千代田 3331、千代田図書館など他 5 箇所）をグループ毎に見学した。
14	4 月 12 日（水）	基礎Ⅱ―3	コーディネーター① ・コーディネーターとは	コーディネーターとして、自分の思いを具体化するには知識や情報収集の技能が必要であることを学習した。
15	4 月 26 日（水）	専門Ⅰ―4	施設見学①事例研究 ・社会福祉協議会 ・ちよだボランティアセンター	センターの役割や機能、ボランティア団体の支援や活動のサポート体制や仕組み等について学習した。
16	5 月 10 日（水）	基礎Ⅱ―4	コーディネーター② ・コーディネーターの専門性と技術	グループに分かれて、関心がある課題について具体的に取り組み、発表した。
17	6 月 14 日（水）	基礎Ⅱ―5	ボランティアとプロボノ① ・今、求められるボランティアとは	ボランティアとマネタリー（有償ボランティア）について学習し、事例をもとに状況や立場について考えるグループワークも行った。
18	7 月 12 日（水）	基礎Ⅱ―6	ボランティアとプロボノ② ・プロボノの可能性	ボランティア活動におけるリーダーシップについて、事例をもとにグループで検討し、発表し共有した。
19	7 月 26 日（水）	専門Ⅰ―6	課題探求＆振り返り ・見学や体験レポートを共有 ・課題探求	各施設のレポートを報告し、それだけでは読み取れない部分を質問することによって理解を深めた。
20	10 月 4 日（水）	習熟Ⅰ―1	オープンカレッジ企画会議①～テーマ～ ・オープンカレッジ企画会議①	「学びでつなごう　地域の輪」をテーマにグループにわかれて内容について話し合った。
21	10 月 18 日（水）	専門Ⅱ―1	専門Ⅱガイダンス事例研究への視点 ・地域とつながるボランティア活動～事例研究の視点から～	ボランティア活動をする人を取り巻く環境について学習した。
22	11 月 1 日（水）	習熟Ⅰ―2	オープンカレッジ企画会議②～詳細～ ・オープンカレッジ企画会議②	広報千代田掲載にあたり、内容、PR 方法等を話し合った。
23	11 月 15 日（水）	専門Ⅱ―2	事例研究① ・自治体の地域づくり政策と企業の CSR～岩手県遠野市・遠野みらい創りカレッジの試み～	地域活性化の取り組み、産官学民の協働のあり方について学習した。
24	12 月 6 日（水）	習熟Ⅰ―2	オープンカレッジ企画会議③～担当・役割～ ・オープンカレッジ企画会議③	広報千代田に掲載する内容について発表、各グループの進捗状況を共有した。
25	12 月 20 日（水）	専門Ⅱ―3	事例研究② ・農村地域を元気にする都市農村交流～熊本県山都町の地域おこしと発信～	都市と農村の交流と積極的な取り組みについて事例から学習した。

以降も実施中

４．第２期生について

（１）募集

①募集期間

平成 29 年 7 月 5 日（水）～8 月 17 日（木）

平成 29 年 8 月 22 日（火）～9 月 11 日（月）（二次募集）

②周知媒体

- ちよだ生涯学習カレッジ入学募集案内
  区施設等に設置
- 広報千代田 7 月 5 日号
- ポスター
  区施設及び区掲示板に掲示
- チラシ
  マンション連絡会を通して 8 月に配布及び区施設等に設置
- 区ホームページ及びＳＮＳ、ちよだ生涯学習カレッジ専用ホームページ

③応募状況（２次募集を含む）

応募者数は 19 名、内訳は以下のとおり。

年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
人数	1	3	4	8	1	2	19

区分	在住	在勤	在学	合計
人数	11	7	1	19

（２）選考・入学

応募者 19 名を審査し、19 名全員の入学を決定した。また、第 1 期生として入学していた１名が留年を希望したため、新たに入学した 19 名に加え、20 名が第 2 期生となった。

（３）授業の日程と内容

原則として火曜日 19 時～21 時

	日程	テーマ		内容
1	平成 29 年 10 月 3 日（火）	入学式	入学式&オリエンテーション ・入学式 ・オリエンテーション ・プログラム説明、自己紹介	第 2 期生 19 名が参加した。
2	10 月 17 日（火）	基礎Ⅰ―1	私、私の生き方 ・自分のキャリアを振り返る ・今後、地域社会とどう関わっていくのか ・ライフキャリア	「生涯学習」と「コミュニティ」の定義を学習し、生涯学習者としての生き方を考えた。

	日程	テーマ		内容
3	11 月 14 日（火）	専門Ⅰ―1	ガイダンスワークショップ ・問題意識の明確化と話し合いの基本	合意形成のトレーニングを実施し、多様性を知り、お互い納得して物事を進める過程を経験した。
4	11 月 28 日（火）	基礎Ⅰ―2	ちよだを都市として考える① ・ちよだのまちの成り立ち	都市計画・コミュニティ・歴史的視点など「ちよだ」を多角的に捉え、学習した。
5	12 月 12 日（火）	専門Ⅰ―2	生涯学習体験 ・自分の生涯学習・ボランティア体験を語り、仲間の体験を丁寧に聴く	「聴く」ことの大切さ、会話促進の「あいづち」を、実際に対話を通して身につけた。
6	12 月 26 日（火）	基礎Ⅰ―3	千代田学①事例研究 ・現代アートと地域 ・外神田と神田錦町での取り組みを中心に	「アーツ千代田 3331」の事例から、地域と共に発展する仕組みづくりを学習した。

以降も実施中

Ⅲ　『ちよだ生涯学習カレッジ』の課題の検討

１．２コース目について

１コース目の「学びと地域のコーディネーター養成コース」では、「学びと地域のコーディネーター」としての実践力に重きをおいたコース設定となっている。

２コース目の検討にあたり、本会議において、各委員から、昨今の訪日外国人観光客の多さ、東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、千代田区の魅力の発信やアピールの必要性、そのための観光分野へのボランティアの誕生・活躍を期待する声が多くあがった。観光分野へのニーズに応じ、将来的なボランティアガイドとしての活躍も見据え、かつ、千代田区の都市としての魅力を内外に発信できる人材として、「千代田まちマイスター」という名称を創設し、このマイスターを養成するコースを設置する。

（1）「千代田まちマイスターコース」

「千代田まちマイスターコース」では、「千代田まちマイスター」を養成する。「千代田まちマイスター」とは、千代田区の地理、歴史、文化などについて学び、まち歩きやワークショップ、インタビューなどを通じて、千代田という土地やまちに精通した人である。本コースでは、千代田区というまちの知識や教養を高め、まちの特性や構成要素を調査研究し、そこから新たな価値を見つけ、創造し、発信する力を身につけることを目的とする。

※「マイスター」という言葉について
マイスター制度はドイツ発祥の職能訓練制度。マイスターは「巨匠」や「親方」という意味で使われる一方、ある分野について学習し、精通した人への資格として使われることも多い。

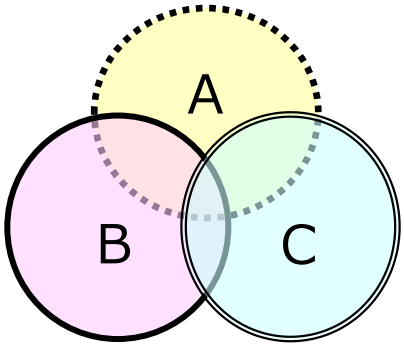
（2）カリキュラム構成（案）

基礎Ⅰ「千代田区学・コミュニティ論」（自分＝個人と地域、千代田区）
基礎Ⅱ「生涯学習概論」（生涯学習入門、大人の学び合い）
専門Ⅰ「シンボリックにみる千代田のまち」（概要・総論）
専門Ⅱ「メディア的にみる千代田のまち」（各論・トピック）
習熟Ⅰ「千代田のまちを実践する」（実践・フィールドワーク）
習熟Ⅱ「千代田まちマイスターへの道」（プレゼン・成果発表）

基礎Ⅰ、Ⅱは「ちよカレ」の共通科目と位置づけ、「学びと地域のコーディネーター養成コース」と共通授業とする。ただし、授業内容・運営の観点から別々の授業となる場合もある。

２．卒業後の展望について

平成 30 年 7 月に初めての卒業生を送り出すにあたり、「学びと地域のコーディネーター」として認定を受けた卒業生が地域でデビューするまでの支援のしくみについて検討を重ねた。その結果、卒業生の主な活躍の場として考えられるのは、「A：ちよカレサポーターへの登録」、「B：人材バンク登録」、「C：千代田区内でのデビュー」となった。また、その具体的な内容について検討を重ねた結果、以下のようになった。



（１）A：ちよカレサポーターへの登録

ちよだ生涯学習カレッジの運営に参画し、学生や卒業生と交流をする。

① 在校生サポート

クラスチューター的存在として支援を行う。「ちよカレ」の各種委員会やイベント（オープンカレッジなど）にファシリテーター的な役割として参加する。

② ちよカレ生同士のつながり

卒業後も「ちよカレ」のつながりを生かせる場や同窓会のような企画など、ちよカレ生をつなぐ役割を担う。

③ 情報受発信

情報の収集や、「ちよカレ」ホームページの在校生ページ、フェイスブックの原稿を作成する。

（２）B：人材バンク登録

生涯学習を行う区民を援助するため、ボランティア・プロボノの「学びと地域のコーディネーター」として人材バンクに登録し、制度を活用する。

① 人材バンク登録

生涯学習団体からの求めに応じて、「学びと地域のコーディネーター」として紹介を受ける。

② 人材バンク活用講座の開催（講師応援型）

人材バンク登録者（講師）自らが企画した企画案を九段生涯学習館で募集する。選考を通過した場合には、「人材バンク活用講座」として、90 分程度の講座を 1～3 回、九段生涯学習館の講座として開催される。自らが講師として、講座の企画から実施に至るまで携わる。

③ 区民自主企画運営講座の企画（サークル活動応援型）

千代田区在住・在勤・在学者 5 名以上で構成する団体を対象に九段生涯学習館で募集する。企画案が選考を通過した場合には、「区民自主企画運営講座」として、120 分程度の講座を 3～5 回、九段生涯学習館の講座として開催される。団体自らが講師として活躍することも、企画運営のみを行い講師派遣を依頼することも可能。

（３）C：千代田区内でのデビュー

「学びと地域のコーディネーター」としてデビューし、活躍する。千代田区生涯学習連絡会を活用し、事務局は生涯学習施設及び関係機関等と相互連携する。そこで得た千代田区で公募するイベントや会議体の委員募集などの情報を、事務局が提供する。それらの情報を生かして応募し、自らにあったデビューをする。

① 事業や区政への企画や提案

千代田まちづくりサポート、区政モニターなど

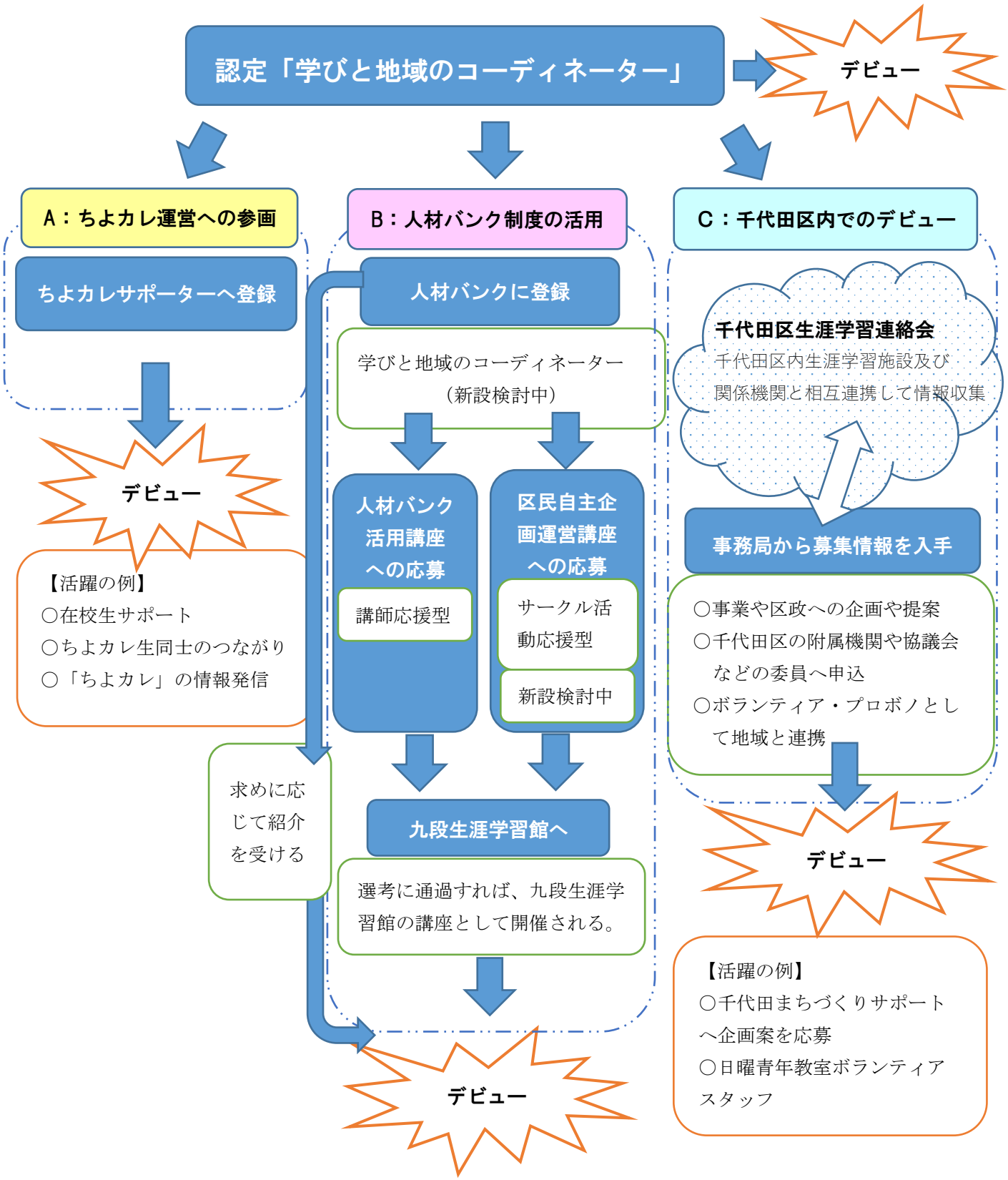
② 千代田区の附属機関や協議会などの委員

地域温暖化対策推進懇談会委員、生涯学習推進委員会議委員など

③ ボランティアとして地域と連携・貢献

おもてなしボランティア、福祉まつりボランティア、日曜青年教室ボランティアなど

○デビューまでのイメージ（例）



Ⅳ　学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり

１．千代田区生涯学習連絡会

第 11 期テーマである「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」を推進するため、また、ちよだ生涯学習カレッジ卒業生が学習の成果を地域で生かすための仕組みづくりに寄与することを目的に、千代田区生涯学習連絡会を開催した。

（１）第 5 回会議　：　「千代田区生涯学習連絡会の設置に向けた準備会」の実施報告

①　実施日　平成 29 年 1 月 19 日（木）

②　内　容

生涯学習機関や関係機関による情報の共有化を通し、生涯学習ネットワークの構築をめざすため、平成 29 年度に「千代田区生涯学習連絡会」を設置の予定である。千代田区生涯学習連絡会に向けた準備会では、設置者、事務局、設置目的について概要説明を行った。

また準備会では、居住人口の増加等により地域コミュニティが変貌しつつある中、新住民に地域との関わりを持っていただくきっかけの一つの手段として、生涯学習が良いツールになる等の意見があった。

（２）第 7 回会議　：　「千代田区生涯学習連絡会設置要綱(案)」の提示

①　内　容

事務局より、千代田区生涯学習連絡会設置要綱（案）を提示し、設置目的や構成団体所掌事項等について説明を行った。また、平成 29 年 9 月 15 日（金）開催前にちよだ生涯学習カレッジ卒業生の活躍できる可能性がある場や連携・協力を図りたい事業等について、アンケート調査を行い情報収集していく等を報告した。

②　推進委員の意見

・開催数「年 1 回以上」では、開催に消極的に見える。
⇒別の会議で「年 2 回」と決めて、形骸化してしまっているものがある。状況に応じて柔軟に対応できるようにこのような表記にした。
・たくさんの機関が集まるので、部署や行事紹介で終わらないようにしてもらいたい。交換した情報を活用していくために、事前準備をしっかりする必要がある。
・時季限定のイベントもあり、年間を通じて各機関の情報を把握する必要がある。
・学社連携の視点から、直接の学校関係者が入っていたほうがよい。
⇒構成団体は、連絡会の進展を見据えて拡充する方向で検討していく。
・「千代田区『定期』連絡会」と「定期」を入れてみたらどうか。
⇒「千代田区生涯学習連絡会」でスタートする。

千代田区生涯学習連絡会設置要綱

（目的）

第１条　この要綱は、千代田区生涯学習連絡会（以下「連絡会」という。）を設置し、連絡会を通じて生涯学習施設及び関係機関等（以下「学習施設等」という。）の相互連携の体制を構築することにより、千代田区内に集積する生涯学習の資源等の有効活用を図り、もって千代田区における生涯学習の振興に資することを目的とする。

（構成団体）

第２条　連絡会の構成団体は、別表のとおりとする。

（所掌事項）

第３条　連絡会の所掌事項は、次のとおりとする。

（１）　学習施設等における生涯学習の資源等の情報交換に関すること。

（２）　連絡会の構成団体が協力して実施する事業に関すること。

（３）　前２号に掲げるもののほか、連絡会が必要と認める事項に関すること。

（開催等）

第４条　連絡会は、年１回以上開催するものとする。

２　連絡会は、地域振興部生涯学習・スポーツ課長が招集する。

３　連絡会は、必要に応じ、構成団体以外の団体の者を出席させることができる。

（事務局）

第５条　連絡会の事務局は、地域振興部生涯学習・スポーツ課に置く。

（その他）

第６条　この要綱に定めるもののほか、連絡会の運営に関し必要な事項は、その構成団体の協議により定める。

附　則

この要綱は、平成 29 年８月 18 日から施行する。

別表（第２条関係）

区分	名称
民間事業者	アーツ千代田３３３１
	社会福祉法人千代田区社会福祉協議会
	公益財団法人まちみらい千代田
	一般社団法人千代田区観光協会
公的機関	千代田区立千代田図書館
	千代田区立日比谷図書文化館
	千代田区立九段生涯学習館
	千代田区立スポーツセンター
行政	教育委員会事務局子ども部指導課
	教育委員会事務局子ども部児童・家庭支援センター
	地域振興部コミュニティ総務課
	千代田区役所麹町出張所、同富士見出張所、同神保町出張所、同神田公園出張所、同万世橋出張所、同和泉橋出張所
	地域振興部生涯学習・スポーツ課

（3）第8回会議　：　平成29年度「千代田区生涯学習連絡会」の実施報告

■　報　告

①　実施日　平成29年9月15日（金）

②　議　題　・千代田区生涯学習連絡会の目的について
・出席者自己紹介（生涯学習施設及び関係機関等の担当者計16名）
・千代田区生涯学習連絡会に関するアンケート結果について
・情報交換

③　アンケート結果　（全19機関）

▽地域活動に参加する人の受け入れ

・可能性がある11機関 /可能性はない2機関 /どちらともいえない6機関

▽生涯学習活動に生かせる他の機関と連携・協力

・図りたい7機関/検討中3機関/不明または未記入9機関

▽意見等

・年4回程度の定期的な開催を希望
・出張所の参加は代表して1所のみでよいと思う
・MIWも構成団体に加えてほしい
・地域の声、要望を聞き、会場提供を含めどのような関わりをもてるのか検討したい

④　情報交換

・かがやき大学には多くの高齢者が受講している。チラシ配布の際には活用頂きたい。
・類似の事業を行っている機関とは、年間計画立案の際、日程調節や内容等について事前に調整して連携していきたい。

⑤　事務局から

・「学びと地域のコーディネーター」としてどのようなスキルやポテンシャルを発揮してくれるのかわからない、という意見があった。具体的にカレッジ卒業生の参画を考えてもらう上では、卒業生の能力についてもう少し見える化が必要である。
・今後、地域の意見やニーズをどのように情報収集してフィードバックしていくか、連絡会の回数を重ねながら深めていきたい。

■　推進委員の意見（実施報告を受けて）

・「出張所の参加は代表して 1 所でよいのではないか」という意見について、出張所は「区内6出張所の代表」として捉えている可能性がある。出張所は「町会等の各地域をとりまとめる出張所」として出席してもらいたい旨を、改めて説明する必要があるのではないか。
・「ちよカレ」の学生の中で町会との関わりがある方はどれくらいいるのか。「ちよカレ」と町会をつなぐ役目を出張所に果たしてもらいたい。

⇒町会をテーマに挙げている学生は何人かいる。
世代交代や新旧住人との問題を解決できるようなコーディネーターを養成していきたい。

２．学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク

（１） 「学び」のネットワークを紡ぐ意義

言うまでもなく、ネットワークとはある目的のために多様な人や組織をつなげる仕組みであり、これを織物に例えれば、縦糸と横糸の交差によって織りなされた形状を意味することになる。

そのネットワークを織りなす「縦糸」とは、「学び」が発展的に進められるよう、学んだことを更なる学びにつなげたり、その成果を地域活動に生かしたりすることができるような側面である。一方、その「横糸」は、「学び」に係る特定の目的に向けて、多様な「学び」の場を活用し、また学習事業提供者などが異なる角度からその場を提供することを言う。また、地域活動を「学び」の場として捉えれば、地域と学習の場との往き来の過程ということになる。

ところで、「学び」は様々な形態で行われ、生涯学習分野については、個人学習、グループ学習、施設利用学習(図書館利用など)、講座などの学習事業参加などによって行われている。また、学習の場は、区役所など公的機関や民間学習事業所、民間企業、ボランティアセンターなど実に多様である。しかし、そうした「学び」は縦糸で結ばれていないと、学習が深まりにくかったり、学習成果を生かす場がなかったりする。また、それが横糸で結ばれていないと、学習の幅が狭くなり、あるいは、学習の事業が競合したり、あるいは必要な学習事業が実施されないままであったりすることがある。

そうした実情を踏まえると、「学び」のネットワークには、「埋める」「正す」「創る」という3つの機能が期待されるのである。「埋める」とは、必要な「学び」やその「場」がない場合にはそうした「学び」を設定し補充することを意味する。「正す」は同じような内容の「学び」が競合している場合には、これを検討し直して、他の「学び」の場に切り替えるなどして補正することである。そして、「創る」とは新たな「学び」の形態・方法や内容を生み出すことや「学び」の成果を地域に生かす方途を設けることなのである。これら 3 つの機能を果たすためには、ネットワークには、主体間の情報交換・共有、相互補完(主体が他者のために協力すること)、協働(複数主体が一つを協力して取り組むこと)が行われる必要がある。

（２） ネットワークにおける「ちよカレ」の位置

以上のようなネットワークの中で、「ちよカレ」がどのような位置を占めるのか。まず、「学びと地域のコーディネーター養成コース」は、これまでの学習を発展的に学ぶ場となり、また卒業後には更なる「学び」やコーディネーターとして地域活動を担う人材養成という点では「縦糸」の位置を占める。

そして、在学中には、地域活動や他の「学び」の場を活用しながら、深い「学び」を展開するための拠点になるという意味で「横糸」に位置づく。その意味で、「ちよカレ」は「学び」を完結する場ではなく、多様な「学び」を展開するための拠点(ハブ)になると言ってよい。「ちよカレ」は 2 年間 36 回の授業が組まれているが、学生にはその間に地域活動を含む他の「学び」につなげていくことが期待されるのである。

（3） ネットワークづくりに果たす「ちよカレ」の役割

以上のように捉えると、ネットワークづくりに果たす「ちよカレ」の役割は、以下の点にあると考えられる。

①「埋める」視点

今、あるいは今後必要とする「学び」を随時取り入れていくことである。今回の本報告書では千代田区の新たな魅力を発見し、これを発信する人材の養成を提言したところであるが、このコースの設置が「埋める」ことだと言える。今後、新たなコースの設置をし、さらに埋めていくことも考えられる。

②「正す」視点

1 コース目で養成される「学びと地域のコーディネーター」は、学習の場などが断絶されがちな実情を「正す」ための役割を担う。こうしたコース設置以外にも、「ちよカレ」が「学び」の競合等を調整し、多様な「学び」に関わる情報発信を行うことも今後期待されてくる。

③「創る」視点

1 コース目の「学びと地域のコーディネーター」や 2 コース目の「千代田まちマイスター」は、新たに創られる千代田区独自の資格になる。今後、そうした資格にこだわらず、「学び」を促し、発展させるためのインセンティブになる「仕掛け」づくりを進める役割を果たすことが求められるであろう。

以上の 3 つの視点には、ネットワーク内の情報交換や相互補完、協働を要することになるが、「ちよカレ」にはこれらの視点を踏まえつつ、「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク」の縦糸と横糸をうまく織りなす役割が期待されるのである。

Ⅴ　今後の課題と展望

今期の生涯学習推進委員会議の主たる目的は、「ちよカレ」の在り方自体の協議というよりも、区民による縦横の学びをいかに紡いで織りなし、これを地域に結びつけるための仕組みの在り方を検討することであった。そのための一つの方策として「ちよカレ」の卒業生のフォローと新たなコースづくりについて協議してきたところである。そうした意味で、「ちよカレ」の今後の在り方を含めた千代田区における生涯学習のネットワークづくりについて、今後の課題と展望について最後に述べておきたい。

（1）学習情報提供の工夫

学びを紡ぐためには、まず多様な学習情報が不可欠になる。情報提供は「流し素麺」に例えられ、いくら情報という名の素麺を筒に流しても、箸(パソコンや情報端末)を持っていない人は食べられず、食欲のない人(その時に学習意欲が高くない人)は見過ごしてしまう。また、よそ見していれば(多忙であったりする人)、そのまま素麺は流れてしまう。情報の流し手と受け手のタイミングが大事である。

そこで、箸を持たない人でも素麺がすくえるように、多様な媒体で情報を提供し、食欲のない人でも食欲がわくような演出、すなわち情報コンテンツの魅力化などが必要だろうし、また情報を見逃さないよう、できるだけ長期間にわたって情報を提供していくのである。そして、区内の「学びの機会と場」を集約し、一元的に提供していくような仕組みの構築が課題になろう。

（2）学びのコンシェルジェの養成

これまで、地域における学びのコーディネーターの必要性を指摘きたところだが、その役割は「ちよカレ」の「学びと地域のコーディネーター」養成コースの卒業生に期待されている。その「学びと地域のコーディネーター」は「学び」を紡ぎ、地域に結びつける役割を担う。これに加えて、何を学び、どこで学び、どう学ぶかという情報を掴んでいない人や学習上の課題を抱えている区民等に対して、多様な要望に応える「学びのコンシェルジェ」の存在が求められるであろう。

そこで、「ちよカレ」卒業生がコンシェルジェにふさわしい人材として活躍できるよう研究生に位置づけることも検討されてよい。そして、研究生期間終了後には生涯学習館などで活動してもらい、また「学びと地域のコーディネーター」に対するアドバイザー役も担うようにすることも考えられる。

（3）千代田区生涯学習連絡会の充実

区内生涯学習施設及び関係機関から成る千代田区生涯学習連絡会は、学びの情報を収集・調整していくために大きな役割を果たすことになろう。関係部署の所管を超えて、多様な学びの情報を縦と横に紡ぎ、これを施策に生かすための重要な場になるはずである。今後は「学びと地域のコーディネーター」や民間事業所の関係者も交えて、さらに会議も充実を図ることが課題になる。現時点では試行的に進められているが、会合を重ね、千代田区における生涯学習の在り方を実質的に検討し、「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク」づくりに資するような活動を期待したい。

本生涯学習推進委員会議は、これまで学びのコーディネーターの在り方を検討し、その配置等について提言してきたが、この度「ちよカレ」の開設によって第１期卒業生が区内外に学びのコーディネーターとして活躍していくことになる。その結果、学びのネットワークづくりは徐々にではあるが、現実味を帯びてきたところである。しかしながら、区内でコーディネーターとして活躍できる場には限りがあり、その結果、コース受講者数の減少も見込まれる。

そこで、そうした状況も想定しながら、「ちよカレ」では２コース目以降もコースの内容を検討し、様々な学習ニーズを持つ区民(在勤を含む)の期待に応えるようにするとともに、将来的には区外在住者の受け入れを検討していけば、学びのネットワークは千代田区を同心円とした形で区外にも広がっていくことになろう。そうしたネットワークの広がりは、区民自身も区外からも学びの刺激や情報を得ることになり、結局は区民の学びを豊かにすることにつながるものと思われる。

そうした意味での「学び」の広がりを期待して、本報告書の「おわり」に代えたい。